



入江杏子

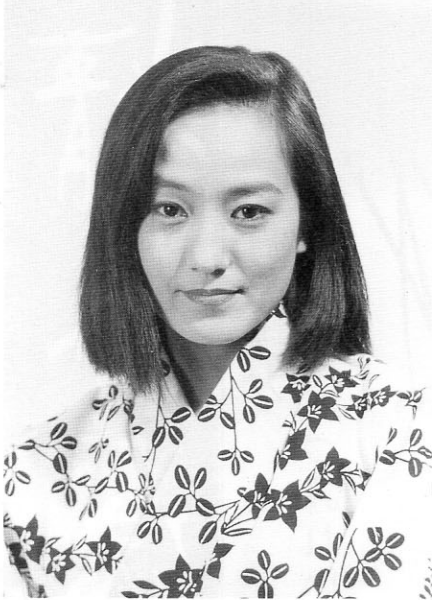
出身/福岡県

○アンネの日記 ○セールスマンの死 ○わか・よたれそ
つねならむ ○力道山 ○闇市悪連体

◎岡部企画・第三回プロデュース公演

精霊流し

透き徹った台詞語りとイメージの劇世界。
珠玉の名作、ついに完全舞台化。



あづみれいか

出身/大阪市

○将門 ○お気の召すま—AS YOU LIKE IT ○刺青
○忠治身代り旅・おれは風来坊 ○薬束綺譚

●精霊流し●

最高のキャストを得て、ついに珠玉の名作が完全舞台化されます。

岡部耕大演出の「精霊流し」は、たった一回、昭和55年(80年)に小劇場で公演されました。「亜也子」「お俠」「黒い花びら」とはまったく違った透き徹った劇世界です。これからは「この作品は取っておきたい」との願いもあつて、今日までまったく公開されなかった幻の名作です。

〈劇評〉'80年読売新聞

(前略) 登場人物は女二人。旧盆8月15日の九州・松浦の古びた旅館が舞台である。自殺未遂でこの旅館に収容された女と、旅館のおばばの間で、それぞれの思いをこめたモノロークスれすれの会話が交わされる。

女は東京で妻子ある男と恋して妊娠し、死に場所を求めて故郷の松浦に戻ってきた。おばばはおばばで、終戦の日の8月15日、大陸に出征している夫をよそに、不義の子を死なせた思い出に生きている。おばばは「生きとりさえすればなんとかなるけれど、人なあ、女ごはなあ」と言い、女のふるさとは「生まれたとこや、嫁いだとこや、子供ば生んだとこや、死ぬとこや」と言う。待ち、流れる女は、したたか強い。

この女二人の松浦(底辺の民衆と土着性)に、岡部氏の思いがからむ。精霊流しの日を終戦の日と決めたことは「粋(いき)」で「酷」だという思い……。すべて鎮魂する日が、またすべてをよみがえらせる日でもあるからだ。

◎岡部企画・第二回プロデュース公演

夢みた 夢子

作・演出||岡部耕大

一九九三年九月九日(未)→十四日(火)

下北沢本多劇場 ○三三四六八〇〇三〇

前売り 4000円

チケットぴあ ○三三二二七九九九

チケットセゾン ○三三九九〇九九九

本多劇場 ○三三三六八〇〇三〇

お問い合せ 有岡部企画 ○四四一九三三九七五〇



- キャスト
- 高岡健二
- 三好鉄生
- 小倉一郎
- 伊藤 粧
- 鴨川てんし
- 矢野晴彦
- 佐藤克之
- 三上伸行
- 斉藤省司
- 服部博行
- 小沢俊明
- 増山浩一
- 草薙幸一郎
- 友里千賀子
- 小川よりこ
- 大森律子
- 遠川暁子
- 麻生佑里
- 大山やえみ
- 鈴鹿景子

テーマ曲「夢過ぎて」作曲||玉置浩二
時代と添い寝がしてみたかった。